

# 創政会先進地視察報告書

## 1 視察先・目的

- 北海道室蘭市  
「夜景観光の取り組みについて」
- 北海道北斗市  
「駅前開発について」

## 2 期 間

平成27年7月14日～15日

視察報告書

日 時	平成27年7月14日(火) 午後1時から2時まで
視 察 先	北海道室蘭市
視 察 項 目	夜景観光の取り組みについて
視 察 者	創政会(川脇裕之、伊藤清一郎、竹内慎治、林 秀人、伊藤正治、渡邊眞弓、伊藤公平、富田一太郎、江端菊和、勝崎泰生)
視 察 内 容	<p>室蘭市は古くから、ものづくりのまちとして、製鉄、製鋼、造船を中心に北海道経済屈指の工業都市として発展し、近年では、環境産業拠点の形成を目指し、PCB廃棄物の広域処理施設、ごみ処理広域処理施設による積極的なリサイクル産業の立地、自然エネルギーでもある風力発電によるライトアップ電力の確保や売電などに取り組んでいる。</p> <p>同市に立地するプラント施設では、工場内のいたるところに照明設備がシーズンを問わず点灯されており、測量山や小高い地形の同市内の様々なところから夜景景観が楽しめる。その中、新たな観光の取り組みとしてJX日鉱日石エネルギー(株)室蘭製油所の集合煙突のリニューアルの際にイルミネーションを取り付けてもらうなど、各企業の協力も得ている。白鳥大橋と測量山のライトアップが平成20年11月に日本夜景遺産として登録され、測量山のイルミネーションプロジェクトにかかわる電気代は市民から公募し、協賛で成り立っており、25年7月19日には、連続点灯9,000日を達成した。白鳥大橋のライトアップイルミネーションの電気料金は全て風力発電で賄われており、その余剰電力は電力会社に売電され、同市の新たな収入源となっている。</p>
所 感	<p>夜景観光については、地域連携のコラボレーションの事例として非常に参考になる取り組みであった。観光客の誘致にとどまらず、地元市民の理解やガイドボランティアを含むツアーへの参加も得られており、既存の資源をどのように活用していくかという観点で、本市でも応用できるのではないかと考える。</p> <p>測量山ライトアップについては、観光地の施設維持を、地元の新聞社を巻き込んで市民からの寄附により連続点灯が9,000日以上継続するという、地域一丸となって盛り上げる仕組みであり、官民連携に地元住民を巻き込んで成果を上げている事例として、本市へのスキーム適応を検討し積極的に取り入れていくことが望ましいであろう。</p> <p>道の駅みたら室蘭については、施設内容及び維持管理に関して課題も多く感じられた。本市においても再開発や新規施策を実施する際には、施行ありきで甘い目算を立てるのではなく、適切なマーケティングや維持運営コストの分析、リスク分析を徹底的にしなければならないと痛感した。</p> <p>室蘭市の視察全体として、成功事例だけではなく課題検討の必要な事例も示唆に富んでおり、限られた予算と少子高齢化の中で、本市の持続的な発展と魅力あるまちづくりの構築のために、今回の視察を大いに活かしていきたい。</p>

視察報告書

日 時	平成27年7月15日（水） 午前10時から正午まで
視 察 先	北海道北斗市
視 察 項 目	駅前開発について
視 察 者	創政会（川脇裕之、伊藤清一郎、竹内慎治、林 秀人、伊藤正治、渡邊眞弓、伊藤公平、富田一太郎、江端菊和、勝崎泰生）
視 察 内 容	<p>平成17年4月、東京都と札幌間をいかに早く結べるかという道民の長年の悲願であった北海道新幹線の新青森と新函館間の着工が決まり、北斗市に北海道新幹線・新函館北斗駅が建設されることとなった。開業予定は、28年3月12日。新青森駅と新函館北斗駅総延長約149キロメートルを40分で運行する。新駅の駅舎デザイン案は、同市にあるトラピスト修道院のポプラ並木をイメージしたものの。この駅舎は2階建てで、2階に改札口を設け、新幹線・在来線ともに1階ホームから発着する構造である。また、外部と連絡する階段通路には前面にガラス張りの付帯施設を設け、その内部には、市民ギャラリーイベントスペース等が置かれる計画である。開業にあわせ、新函館北斗駅の南側13.5ヘクタールについて土地区画整理事業で商業用地となる宅地造成工事を急ピッチで行っている。駅前地区の土地区画整理事業は、公園と駅前広場の一部を除いた約12.09ヘクタールの造成が完了し、観光交流センターや駐車場も一部を除き完了している。企業誘致については、ホテル事業者1社、レンタカー事業者7社、タクシー事業者1社の計9社の進出が決まっています、立地に向けて事業者と協議中、あるいは事業者において検討中の案件もあり、可能な範囲で同市として支援していくとのことであった。</p>
所 感	<p>来春、北海道新幹線が営業を開始し、新幹線新駅が開業する北海道北斗市で新函館北斗駅の駅前開発について視察を行った。条件は違うが本市においても今後、朝倉駅前の再開発が必要であり、新幹線新駅という地域にとって非常に大きな新要素が加わる同市の視察は有意義であると考えた。鉄道と道路の交差部分にはハーフアンダーパス工法が用いられ、投資額も安価で工事期間がかからない工法であり、知多刈谷線の緒川付近名鉄河和線の道路計画の参考になった。近い将来に西知多道路が建設され、朝倉駅に隣接する朝倉インターの機能が高度化するという、新たな要素が加わる点で本市と共通している。JR新幹線と名古屋鉄道の常滑線及び空港線では規模こそ違うが、朝倉駅前再開発においては、名古屋鉄道との共生を考えなければならない。本市においても朝倉駅前再開発をどう進めていくか大変重要な問題である。にぎわいのある駅前はいわば、そのまちの顔となる存在である。朝倉駅前再開発計画の立ち上げには、事前のマネジメントとリサーチを充分に行い、明確な指針とビジョンを示すことが必要である。また、行政主導型開発ではなく、民間企業が参入した開発事業のほうが企業誘致を行いやすいと感じ、大型ショッピングモールなど大型商業施設を誘致し集客力を強めることが、地域経済発展につながると感じた。</p>

